

人間社会学部

試験問題冊子

(A日程 1月28日)

国語

注 意

- ① 試験監督者の指示があるまで、問題冊子を開かないこと。
- ② 問題冊子に落丁、乱丁があった場合は、試験監督者に申し出ること。
- ③ 試験監督者が試験開始の指示をしたら、ただちに解答用紙の所定欄に、受験番号を記入し、マークすること。
- ④ 解答は全て解答用紙に記入すること。
- ⑤ マーク式解答欄および裏面の記述式解答欄の指定された箇所以外は使用しないこと。
- ⑥ 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

注意 解答はすべて各問の下端の 内に指示された解答欄にマークまたは記入すること。なお、解答欄のうち、この試験で使うのは、マーク式解答欄の 1 14、記述式解答欄の A J のみである。

問題一 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

昆虫のなかには社会生活を送るものがある。よく知られているのは、蜂蜜の生産のために飼育されるミツバチや、毎春秋に人が刺されて問題になるスズメバチだろう。このほかにも、実はハチのなかまであるアリ、さらにシロアリ、アブラムシ、そしてアザミウマ目の昆虫に社会性があることが知られている。

そこには人間社会を徹底的に原理化したような様子、いわば縮図を見ることができ。そもそも人間以外の生物における社会性とはなんだろうか。漠然と考えると、たぐさの個体が一緒に暮らしていることと想像するかもしれない。それも重要な点だが、一番大切なのは、「階級（カースト）」があることである。

たとえばミツバチやスズメバチの場合、卵を産む女王バチがいて、その下に、働くことに専念し、産卵しない働きバチがいる。

このように、卵を産む階級（通常は女王）と卵を産まずに働く階級がともに生活していることを、とくに「真社会性^ア」という。

これらは通常、血縁関係があり、その点ではまさに「家族」であり、他人どうしの関係である人間の社会とは根本的に構造や意味が異なる。しかし先に述べたように、それらの行動や生活、種間関係は、どうしても人間社会と対比して考えざるをえないほどきわめて「社会的」なのである。

また、社会性昆虫は、社会性を背景としたその高等な生活様式が関係してか、地球上で大きく繁栄しているという特徴がある。熱帯雨林では、すべてのアリの生物量¹だけで脊椎動物のそれを大きく凌駕²する。

アリには植物食のものが多く、生物量から見たその優位性や他の生物を追い払う排他性から考えると、実は熱帯雨林における生態系の頂点には、ヒョウなどの大型肉食獣の陰に、多くの種をひとまとめにしたアリが君臨しているともいえる。

一方、同じく生物量の大きなシロアリは、木材を中心とした植物遺体の分解者として有力な働きを示す。もし熱帯にシロアリがいなかったら、ほかの昆虫や小動物、菌類が分解しきれなかった倒木や落ち葉で、森はわずかな年月で埋まってしまい、同時に多くの植物が死滅してしまうだろう。

亜社会性^イという言葉もある。亜社会性はさまざまな昆虫に見られ、真社会性のような階級はないが、親が子供のために卵を守ったり、餌の供給を行ったりする。

とくに有名なのはモンシテムシ属の甲虫である。シテムシは「埋葬虫」とも呼ばれ、音をあてると「死出虫」となる。その名のとおり、動物の死体を専門に食べる変わった習性を持つ。

ネズミなどの小動物の死体があると、成虫はその腐敗臭に惹かれて飛来し、³シユウ協働で地面の下に埋める。死体の下の土をかき出すことを繰り返し、それによって、死体

が土のなかに隠れていく。

動物の死体は実は栄養に富んだ餌源で、ハエの幼虫（ウジ）や別の甲虫など、競争者が多く、とくにハエが卵を産むと、あっという間にウジが死体を食いつくしてしまう。死体を埋めるのは、そういう競争者から死体を隠すためである。

地面に死体を埋めると、こんどはそれをきれいな球形の肉団子に加工する。そして表面にハエの卵があれば、念を入れて取り除き、カビが生えないように管理する。

モンシデムシはその団子の上に卵を産み、生まれた幼虫にそれをかじって口移しで給餌するのである。まるで親鳥が雛に餌を与えるように。

ツチカメムシ科のベニツチカメムシは、ボロボロノキという木の実を専門に食べる珍しいカメムシである。この種は地面で子育てをするが、その場所から落ちている実を探しに出かけ、見つけるとその実を抱えて巣に戻る。口移しに餌を与えるわけではないが、このようにして定期的に子供の餌を補給する。

ベニツチカメムシは日本の照葉樹林に生息するが、日本ではほかにも給餌を行うツチカメムシのなかまが生息する。

ほかにも、自分の産んだ卵と幼虫を守るツノカメムシ科の種や卵を背中に背負うコオイムシというコオイムシ科の水生カメムシ、石の下で抱卵するハサミムシ目のなかま、そして、子供に餌となる菌類を与えるキクイムシ科の甲虫（真社会性の種も存在する）など、さまざまな段階や形態で、亜社会性は観察される。

社会性昆虫の子育てもそうだが、モンシデムシやツチカメムシのなかまの行動を見ると、いかにも甲斐甲斐しく世話を焼いているようで、われわれはつい「愛情」や「親子愛」などという言葉を使ってしまうがちである。

そうとらえるのも一つの見方かもしれない。しかしそれは生き物の個性あふれた本質を見逃がしてしまっている表現である。

a 動物の子育ては、一見そのように見えても、自分の遺伝子を効率よく残す一生活様式にすぎない。「愛」でひとくくりにされてしまいがちなさまざまな行動には、それぞれ何らかの生物学的な意味があるのである。少々冷たい言い方かもしれないが、それはヒトの「愛」をとってみても、実は同じようなものである。

あらゆる生物において食べ物を摂るためのもつともありふれた方法は、周囲にあるものを捕まえたり、収穫して食べたりすることである。社会性昆虫においても、ほとんどの種において、この方式があてはまる。

しかし、彼らは社会性昆虫の特性を活かし、組織立って狩猟や採集を行うことがある。狩猟という点では、その代表はグンタイアリのなかまである。その昔、映画『黒い絨毯』で描かれたように、人をも襲うと噂される恐ろしいアリである。

グンタイアリは、南米に生息するグンタイアリ亜科（亜科とは、科に含まれる一つ下の単位）と、それぞれアフリカと東南アジアの熱帯域を中心に生息するサスライアリ亜科とヒメサスライアリ亜科の三つの分類群のアリの総称である。

これらのアリは、第一に決まった巣を持たない放浪性であること、そして集団で狩りを行うこと、さらに女王アリはその腹部が膨⁴れて特殊な形態になっていることで特徴づけられる。

ヒメサスライアリ亜科のアリはほかのアリを専門に襲う習性を持っている。アリの生態系の頂点の一つと考えるならば、ヒメサスライアリはさらにその頂点に君臨する存在でもある。

ヒメサスライアリの攻撃を受けないアリも一部いるものの、さまざまな種のヒメサスライアリ（東南アジア全体で五十種以上）は種ごとに別のアリの襲い、結果として広範な分類群のアリがヒメサスライアリによって捕食される。

熱帯の森林はさまざまな「微環境」で構成される。微環境とは、ごく狭く小さい特別な環境のことである。たとえばアリの生息場所でいうと、落ち枝や腐った木の実の中、木の洞、樹上、そして地下などがあげられる。その微環境ごとに別の種のアリが生息し、それぞれの微環境で生態的に重要な役割を担っている。

たとえばマレーシアの熱帯雨林に行くと、わずか数百メートル四方に五百種近いアリが見つかることがある。日本は北海道から沖縄までで三百種弱のみが生息していることを考えると、これだけでそれらを擁する環境の多様性を想像することができるだろう。

ヒメサスライアリは、各巢の生息域の範囲で、そこに棲む自分たち好みのアリの狩り、一掃してしまう。

盲目で、小さなアリ（大きくても五ミリメートルほど）だが、数千から数万の働きアリ（軍隊）を持ち、その狩りの様子はすさまじい。集団で相手の巣にだれ込み、抵抗するアリの毒針で刺して殺す。幼虫や蛹を持ち去って、自分たち自身と幼虫の餌とする。

ヒメサスライアリが生息する地域のアリは、本能的に彼らの恐ろしさをよく知っているようで、ヒメサスライアリが来ると大急ぎで幼虫をくわえて巣から飛び出し、逃げまどう。しかし、生き残るのは運の良い巣だけで、彼らに狙われた大部分の巣は殲滅されてしまう。

野外でその残酷な狩りの様子を観察していると、まるで野武士に略奪される集落を見るようである。

しかし、ヒメサスライアリはただの野武士ではない。彼らが去り、アリがいなくなった場所には、新しい別のアリが営巣できるようになる。これにより、生態的に強いわずかな種のアリが一定の場所を占拠することが抑えられ、結果として熱帯におけるアリの多様性が維持されると考えられている。

（丸山宗利 『昆虫はすごい』）

問1 傍線部1、2、4、5の漢字のよみをひらがなで、傍線部3のカタカナを漢字に直して、それぞれ記述式解答欄に記入しなさい。

1 2 3 4 5

問2 傍線部ア「真社会性」を示す昆虫の行動または生態として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 数匹の女王バチとその親類縁者で生活様式を基盤とした社会を構成している
- ② 生物量から見て優位性があり、ほかの生物を追い払い排他性をも持っている
- ③ アザミウマ目の昆虫にみられるように、たくさん個体が一緒に暮らしている
- ④ 子を産む女王バチと子を産まない働きバチがカーストのもとで共生している

問3 傍線部イ「亜社会性」を示す昆虫の行動または生態として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 自分たち好みのアリを見つけると、その巣を根こそぎ狩って死滅させてしまう
- ② ボロボロノキの実を巣に持ち帰って子供たちに餌として与えている
- ③ 小動物の死体を土の中に埋めて隠して競争者に勝とうとする
- ④ 巣を持たずに放浪して周囲にあるものを捕まえたり収穫して食べたりする

問4 傍線部ウ「甲斐甲斐しく」の意味として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 溺愛して
- ② わざとらしく
- ③ 人間の母親のように
- ④ 骨身を惜しまずに

問5 空欄 に当てはまる語として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① だから
- ② しかし
- ③ つまり
- ④ そして

問6 傍線部エ「環境の多様性」の本文中の事例として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① マレーシアの熱帯雨林は、さまざまな微環境で構成されている
- ② 北海道から沖縄には、三百種類の昆虫が生息できる環境がある
- ③ 落ち枝や腐った木の实の中、木の洞、樹上、地下などの環境は限られる
- ④ ヒメサスライアリの種類は、東南アジア全域で五十種以上に及んでいる

問7 傍線部オ「ヒメサスライアリはただの野武士ではない」と筆者が主張する理由として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

6

- ① 集団で相手の巣になだれ込むので、一騎打ちを好む武士とは戦法が異なるから。
- ② 集落を略奪しても立ち去るため、新しい別のアリが営巣できるようになるから。
- ③ 生態的に弱い種のアリにも一定の場所を提供するようになるから。
- ④ 抵抗するアリを毒針で刺して殺す姿は情け容赦なく、武士とは形容し難いから。

問8 本文の内容に最も合致するものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

7

- ① 昆虫のなかには社会生活を送るものがある。モンシテムシやツチカメムシのなかまの子育てには「愛情」や「親子愛」が感じられるが、それは自分の遺伝子を効率よく残す一生活様式に過ぎず、そこが人間と昆虫の最も異なる点である。
- ② シロアリは、木材を中心とした植物遺体の分解者として熱帯では有力な働きをしている。もし熱帯にシロアリがいなかったら、多くの植物が死滅してしまう。住宅建材に害を及ぼすシロアリとは別種のものである。
- ③ モンシテムシによる動物の死体処理は見事である。地面に死体を埋めると、きれいな球形の肉団子に加工して、団子の上に卵を産み、生まれた幼虫にそれをかじって親鳥が雛に餌を与えるように口移しで給餌している。
- ④ 組織立って狩猟や採集を行うグンタイアリは、南米に生息するグンタイアリ亜科と、アフリカのサスライアリ亜科、東南アジアのヒメサスライアリ亜科に分類される。いずれも女王アリの頭部は特殊な形態になっている。

問題二 次の文章を読んで、後の設問に答えなさい。

音楽を聴いて、「この曲はどうもよく判らない」と感じることもある。日頃歌謡曲ばかり聴いている人が、ベートーヴェンの弦楽四重奏曲にソウグウしたとき¹。古典派やロマン派の音楽にシンスイ²しているクラシック・ファンが、初めてブルーレーズの音楽を聴いたとき。あるいは、西洋音楽に囲まれて生まれ育った人が、初めて雅楽を聴いたとき。人は、聴き慣れない音楽に出会ったとき、しばしばその音楽を「理解できない」と感じ、当惑する。もつとも、耳馴れない音楽との新たな出会いが、常にそのような当惑をもたらすとは限らない。それまで経験したことのない音楽を耳にして、一瞬にしてそれに深く共感することも決して少なくないはずである。

そもそも、音楽を「理解する」とは、一体どのようなことなのだろうか？

もし、音楽が一種の言語のようなものであり、言語に似た意味作用をもっていると考へるとすれば、この問いに答えることは難しくない。書かれた文章を読み、語られた文章を聞いて、その文章が伝える意味内容が判ったとき、人はそれを理解したと感じる。それと同様に、聴いている音楽の表現内容が判れば（あるいは、それを感じ取れば）、その音楽を理解したと言うことができる。歌詞をもつ音楽が器楽曲よりも「判り易く」感じられることが多いとすれば、それはまさに、ここでの言葉（歌詞）が音楽の意味表現を援けて——あるいは逆に、モンテヴェルディが「言葉は音楽の主人³」と言って示唆したように、音楽が言葉の意味表現を援けて——、聴き手を表現内容の理解に導くからだろう。歌やオペラのような声楽曲では、言葉と音楽との協力によって、その音楽作品の表現内容が伝達される。

一方、歌詞もなく、音楽自体も耳馴れない曲は、知らない外国語の文章になぞらえることができる。見知らぬ言語の文章は、暗号のような文字の連続にしか見えず、単なる噪音^{そうおん}にしか聞こえない。当然、その表現内容など掴み得るはずもなく、したがって、それを理解することはできない。見知らぬ音楽言語による音楽は、単に、意味不明の音響でしかないのである。

「音楽の理解とは、その表現内容の理解である」とするこうした考え方は、それが音楽の表現内容に重きを置いているという意味で、「内容主義」と呼ぶことができるだろう。音楽は、自然言語とはずいぶん様子を異にしている。しかしそれでもとにかく、音楽を、表現内容を伝えるための一種の言語のようなものと見做^{みな}して考える。すなわち、音楽は、本質的には、意味内容の伝達媒体である。それが、内容主義の立場の前提である。

しかし、「形式主義」音楽観に立てば、このような前提は全く受け容れ難い。形式主義者にとって、音楽とは、単に、抽象的で自律的な音の構成体（「形式」）であって、それは音楽自体の外にある何らかの表現対象を指し示すものではない。つまり、音楽は、自然言語のような意味作用をもたない。音楽の内容とは、存在しない「意味内容」などではなく、「響きつつ動く形式」そのものである。そして、音楽が、本質的に、「響きつつ動く形式」にはかならないのであれば、そこでの「音楽の理解」とは、この形式を掴むことによって達成されることになる。すなわち、曲を聴いて、その曲の形式を聴き取り、感じ取ることができたとき、その曲を「理解した」と言うことができる。

演奏会でのプログラム・ノートやCDの曲目解説には、大抵、曲の形式についての説

明がある。こうした解説文が書かれる目的は、特殊な場合を除けば、聴き手の音楽の理解をウナガすことにあるのだから、その多くが形式の説明を含んでいるという事実は、⁴音楽の理解における形式認識の重要性が、形式主義者達の間だけでなく、かなり一般的に広く意識されていることの間接的な証だろう。内容主義にあっても、形式は、決してないがしろにされているわけではない。a、自然言語における意味伝達は文法や文構成といった構造形式に依存しており、したがって、音楽が一種の言語のようなものであれば、そこでも同様のことが言えるはずだからである。自然言語や音楽といった伝達媒体において構造形式が重要なのは、それを通じてのみ意味内容が表現され得るからである。つまり、内容主義にとつて、音楽の構造形式の重要性は、それが表現内容の伝達において果たす「機能」にある。一方、形式主義は、構造形式を、音楽そのものの本質に据えるのである。

⁵タクエツしたピアニストであり、同時に、古典派やロマン派の音楽についての優れた著書で知られているチャールズ・ローゼンは、次のような逸話を紹介している。それは、彼がピエール・フルニエとベートーヴェンの《チェロ・ソナタイ長調》作品六九を演奏したときのことである。ちょうど、音楽学者のルイス・ロックウッドがベートーヴェンのその作品のスケッチや手稿譜について行った研究が出版されたばかりで、ローゼンは、そこで読んだ興味深い事実をフルニエに話した。つまり、その曲の第二主題は、第一主題から派生的に造られており、ベートーヴェンのスケッチでは、実際、第一主題のすぐ下に第二主題が書き記されているのである。それを聞いたフルニエは、とても感心した様子で、こう言った——「私はこの曲を五十年も演奏してきたが、二つの主題が実は同じ主題だということには全く気づかなかった」。フルニエは、それに気づかずとも、この曲の数々の名演を為してきたのである。ローゼンは、「もし彼がそれを知っていたなら、彼の演奏はさらに良くなっていたのだろうか？ 私はそうは思わない」と書いている。

「音楽の構造形式」と言うとき、私達がすぐに思い浮かべるのは、曲の全体形式——例えば、ソナタ形式、ロンド形式、変奏曲形式といったような、いわゆる「形式」——であったり、あるいはもう少し分析的な見方をして、ロックウッドが指摘したような、曲を構成する諸主題の相関関係等々であったりする。音楽の理解にとつて、そうした構造形式の認識や感受が不可欠である（あるいは、少なくとも、極めて重要である）というのであれば、フルニエはベートーヴェンのこのチェロ・ソナタを十分に深くは理解していなかったということになり、それにも拘らず優れた演奏を実現したということだろう。しかしこれは、極めて不自然な、逆転した論理ではないだろうか。普通私達は、優れた演奏を聴いたときに、その奏者が曲をいかに深く理解しているかを感じる。まさに演奏の質こそが、その奏者の音楽理解の深浅を表すのである。つまり、素晴らしい演奏をしたフルニエは、諸主題の相関関係に気づいていなかったにも拘らず、その曲を深く理解していた。むしろそう言うべきだろう。

（近藤 譲 『音楽』という謎）

問1 傍線部1、2、4、5のカタカナを漢字に直し、傍線部3の漢字のよみをひらがなで、それぞれ記述式解答欄に記入しなさい。

1

F

 2

G

 3

H

 4

I

 5

J

問2 傍線部ア「言葉は音楽の主人」の説明として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① 言葉は時として噪音のようにしか聴こえない音楽の理解を助ける。
- ② 言葉は音楽の表現内容を理解する手助けをする。
- ③ 音楽は言葉で表現された内容を理解する助けとなる。
- ④ 音楽は言葉の力を借りて表現の深さを獲得することができる。

8

問3 空欄 a に当てはまる語として最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

- ① ところが ② そのうえ ③ ただし ④ というもの

9

問4 傍線部イ「極めて不自然な、逆転した論理」とは何を指すか。最も適当なものを、次の①～④の中から一つ選びなさい。

10

- ① フルニエが長年演奏してきたにもかかわらず音楽構造を理解していなかったこと
- ② フルニエが音楽構造を理解していないにもかかわらず優れた演奏をしたこと
- ③ フルニエが優れた演奏をした事実は、彼が曲をよく理解していた証拠になること
- ④ フルニエの優れた演奏を聴いた人は、彼が曲をよく理解していたと感ずること

問5 次の(1)～(4)について、筆者の主張と合致するものを①、合致しないものを②として、それぞれ解答欄にマークしなさい。

- (1) 音楽の理解には構造形式の認識や感受が不可欠であり、それなくしてすばらしい演奏を行うことはできない。

11

- (2) 形式主義的な音楽観に立てば、音楽の言語としての理解が最も重要であると言える。

12

- (3) 演奏会のプログラム・ノートに楽曲の形式解説が掲載されているのは、表現内容の伝達において構造形式が重要な意味を果たしていると考えられるからである。

13

- (4) 音楽は本質的に意味内容の伝達媒体としての機能を持っていることから、ある種の言語と考へても良いと考えられる。

14

(以上)